提出締め切り: 帰国後１ヶ月以内　　提出先: shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度　JASSO 派遣報告書

報告者氏名　　松下　綾日　　23 年度（入学・編入）

1.研究課題：

インド映画とグローバル化

2.派遣期間：

平成 24 年 1 月 4 日　～　24 年 3 月 10 日　　（　　67 日間　　）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

本フィールドワークの目的は、基礎となるインド映画史の調査と現在のボリウッド映画はどのような状況にあるか、どのように受容されているかといった調査である。これらから、大きく変わりつつあるインド社会を観察・分析していく。

まず、デリーやムンバイといった大都市では、最新型のシネマコンプレックスが増え、そこでは従来の映画館より値段が高く設定されている。そのため、映画館によって利用する観客層に違いがみられる。また、大都市であるが故に他の娯楽が存在するため、大都市では映画館が人びとの最大の楽しみの場というよりも、暇つぶしの場となりつつある。しかし、地方都市では、映画館が人びとの最大の娯楽の場として残っており、多くの人が歓声をあげ、観客が映画と一体となって鑑賞している。よって、今回の派遣で、映画館のタイプや地域の違いで、映画に対する意識に温度差があることが明らかとなった。また、マハラシュトラ州の映画館では、上映前に国歌が流れ、観客は起立し、国歌斉唱が行われていた。この点は、興味深かった。大衆の集まる映画館は、人びとの意識の団結を促す役割も担っているようである。

次に、AV 資料の収集の際に得られた知見として、インドでは日本と同じように正規の DVD ショップが存在し、そこで購入するのが主流であり、露店で売られる場合が少なかった点を挙げておきたい。これは、以前調査したインドの隣国ネパールと全く逆の状況であった。インドでは、海賊版に対する規制を強めていると思われる。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回のフィールドワークで、地域研究を進めていくには語学の習得は避けては通れない道であることを痛感させられ、海外への中～長期留学を視野に入れるようになった。語学を習得することは、①原語で映画を解することができる、②一般人や映画関係者へのインタビュー調査、情報収集を行うことができるなど、今後の研究を向上させることにつながる。これからも、様々な機会を利用して海外へ出て、語学を鍛えながら、研究に活かしていきたい。

新学期からは、すでに単位を取得しているが、大学の語学の授業に出席して今後の海外への渡航や留学に備えたい。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

今回も前回と同様、短期間で円滑に手続きを行っていただけたので、前回プログラムの帰国から今回の渡航までの期間が短い私にとって非常に助かった。今後もこのようなプログラムがあれば、是非参加したい。

署名